

テクニカルプレゼンテーションの手法

有限会社 山之内総合研究所

セミナーの主旨

技術系プレゼンテーションを行うにあたっての疑問・課題に答え、聴き手の理解・評価に結びつく解決策を示します。

プレゼンテーション(以下、プレゼン)は、「解説者と聴き手が同じ場所・同じ時間の中で理解を共有する手法」として、誰もが身につけなければならない表現手法といえます。技術の分野でも開発した製品・サービスの有用性を技術者自身の声で聴き手に向けてプレゼンで訴求する機会が日常的になっています。

しかし、「技術の解説」あるいは「開発の経緯と製品の仕様」に重点を置きすぎ、聴き手にとっての「課題の解決」が十分に伝わらないプレゼンに陥る場合があります。技術を基盤とした製品・サービスの有用性を訴求するプレゼンでは、聴き手の課題を的確にとらえ技術に裏付けられた解決策を提案する必要があります。聴き手が必要とする到達点に向けてシナリオを構成し、各プレゼンスライドで主題と要点を明確に示すことが基本であり重要です。また、複雑になりがちな技術の解説を箇条書き、表あるいは図解を効果的に組み合わせて視覚的に示し、聴き手の関心をとらえなければなりません。

そこで、「相手の理解を考えて技術をわかりやすく解説する手法＝テクニカルライティング」から発想し、プレゼンの実施者が望む成果に結びつけるプレゼンの構成手法、すなわち「テクニカルプレゼンテーション」を提唱します。本セミナーでは、製品・サービスの提案・解説を行うプレゼンを想定し、「主題と要点の示し方」、「シナリオ構成の考え方」ならびに「図解の手法」を中心に解説します。

* 本セミナーでは、顧客向けにITサービスを提案するプレゼンを想定しています。

セミナー実施方法と概略構成

- 実施方法 「プレゼンテーション+質疑応答」方式
- 参加対象 技術系企業でプレゼンを行うあるいはプレゼンスライドを作成する機会がある方々
- 参加者数 3名(最少開催)～40名程度(最大)*1開催当たり
- 時間 午後半日
- 講師 山之内総合研究所 山之内孝明

第1部	スライドデザインの考え方と箇条書きの使い方 －書式の基本と見やすさの工夫－
第2部	「主題」と「要点」の示し方 －明確な主題(スライドタイトル)と要点(メッセージ)－
第3部	シナリオ構成の考え方 －プレゼンの到達点が明確なシナリオ構成－
第4部	図解の手法と配色の工夫 －聴き手の理解につながる図解と配色－

- 本セミナーに関するお問合せ方法は、本資料の最後をご覧ください。

プログラム

【注】以下の各項目はプレゼンスライドの抜粋・要約です。また、解説の順序は一部前後する場合があります。

第1部 スライドデザインの考え方と箇条書きの使い方

プレゼンスライドは、全体のまとまりとともにそれを構成する要素(主題、要点、図・表など)に視線が誘導される構図でなければなりません。第1部では、見やすさ・理解のしやすさにつながるスライドデザインの選び方・考え方を解説します。あわせて、プレゼンの基本となる箇条書きの効果的な使い方をさまざまな事例で解説します。

▶ 「視線」が誘導されるスライドデザイン

陥りやすい事例-視線が定まらないプレゼンスライド- / 「始点」の置き方 / 視線を誘導する工夫

▶ 箇条書きの書式と工夫

文字の大きさの選び方 / 行間と段落間の設定 / 陥りやすい事例-簡略しすぎと書きすぎ- / 項目数が多い場合の工夫 / 項目数が少ない場合の工夫

▶ 箇条書きの文体

文体の統一 / 「パラリズム」の原則 / 項目が長くなる場合の工夫 / 「補足文付き箇条書き」の使い方

▶ プレゼンスライドの構成

プレゼンスライドの3要素 / 「要点」が欠落した箇条書きの見直し方 / 箇条書きから図解への発想 / “見てわかる” 箇条書きをまとめるポイント

▶ 「箇条書き」と「見出し」の使い分け

陥りやすい事例-箇条書きと見出しの混用- / 「項見出し」の使い方 / 「項見出し」を使う利点

第2部 「主題」と「要点」の示し方

シナリオ構成の「主題(プレゼンテーマ)」と「結論(例:提案の結論)」とともに、1枚のプレゼンスライドにも「主題(スライドタイトル)」と「結論(要点)」がなければなりません。明確なスライドタイトルと要点は、わかりやすいプレゼントークにもつながります。第2部では、「要点」の効果的な示し方とスライドタイトルの付け方を解説します。あわせて、プレゼントークの構成の考え方を解説します。

▶ 「主題」-「要点」構成の原則

「要点」の表し方 / 「1枚完結」の原則 / プレゼントークを円滑にする“コツ” / 陥りやすい事例-「要点」がない図・表中心主義のプレゼンスライド-

▶ スライドタイトルの付け方

スライドタイトルの考え方 / 陥りやすい事例-あいまいなスライドタイトル- / 注意をして使うスライドタイトル / 陥りやすい事例-スライドタイトルの欠落と同じスライドタイトルの連続- / 「要点」をスライドタイトルにする手法 / 用語と文体の統一

▶ プレゼントークの構成

「解導出」型のプレゼントーク / 「要点-補足」型のプレゼントーク / プレゼントークがまとまりづらい例

第3部 シナリオ構成の考え方

不要に前置きが長いシナリオ構成は聴き手の関心をそぎかねません。序盤で聴き手が「なるほど、自分にとっての解決策だ」と納得してくれるシナリオ構成が適切と言えます。第3部では、「課題の提示」から「解決策の提案」、さらには「提案の解説」までを模擬事例で解説します。

➤ 「課題」と「解決策」の示し方

「課題」の示し方／中扉の使い方／「解決策」の示し方／「解決の図式」の表し方／「中間のまとめ」の表し方

➤ 「提案の構成」と「提案のトピクス」の示し方

「提案の全体像(要点)」の示し方／「提案を構成する要素」の示し方／キーとなるトピクスの示し方／補足的なトピクスの示し方／「提案のまとめ」の示し方

➤ 「聴き手」視点のシナリオ構成

前置きを短くしたシナリオ／「解決策＝提案」型のシナリオ構成／「経緯＋シナリオ」型のシナリオ構成／箇条書き・図解・表の効果的な使い分け

➤ [補足]簡略なプレゼンのシナリオ構成(報告型の例)

報告型プレゼンで基本的なシナリオ構成／結論を先に述べたシナリオ構成

第4部 図解の手法と配色の工夫

「データの意味あるいは概念・論理・を視覚的に表現する」、「多くの情報を見やすく要約する」には図解化(チャート化)が効果的です。第4部では、わかりやすくかつ解説しやすいチャートの作成手法(基本的な考え方から実際のプレゼンでの使い方)を解説します。あわせて、配色する際の工夫を解説します。

➤ 「概念」・「論理」の図解化

チャートの基本／位置付けを表すチャートの考え方と事例／効果・変化を表すチャートの考え方と事例／陥りやすい事例ー不要に詳細な図解と不要に簡略な図解ー／「グループ化」と「命名」の手法／「共通化」の手法／陥りやすい事例ー“ワープロ文書風”図・表付き解説文ー

➤ 配色の工夫

配色の基本／陥りやすい事例ー統一感に乏しい配色ー／グラフ・チャート・表への配色

[重要] 開催に伴う付帯事項

本セミナーは、出張形式の有料セミナーです。

- ご依頼をいただいた技術系企業に当社が出張する方式を基本前提としています。
- 当社ホームページに公開しているプレゼンスライドとの重複はおよそ10%です。

[参考] 実施費用の例

最少開催3名からお受けします。開催費用は参加者数および諸条件(場所、その他)をもとにお見積りします。参加者数に応じて参加1名当たりの金額が割安となります(最大40名程度まで)。

以下の参考例は出張によるセミナー基本料金と実施諸経費の例です(2010年11月現在)。

- セミナー基本料金は年1回程度の割合で見直す場合があります。

参考例 1：参加 3 名（東京都内）

件名：テクニカルプレゼンテーションの手法

	費 目	数 量	金 額	備 考
1.	セミナー基本料金（参加 3 名）	（一式）	40,000	午後半日
2.	教材版下費	（一式）	4,000	
3.	出張交通費	（一式）	5,000	
	小 計		¥49,000	
4.	消費税（上記 1～3.の 5%）	（一式）	2,450	
	合 計		¥51,450	（税込み）

- 参考例には教材印刷費は含みません。コピー用版下で提供します。
- 参考例には会場費、機材費（プロジェクタ、スクリーン）などは含みません。御社のご用意となります。
- 諸条件（会場、開始時間・終了時間、事前準備・打合せなど）によって別途料金のご相談が必要な場合があります。

参考例 2：参加 10 名（東京都内）

件名：テクニカルプレゼンテーションの手法

	費 目	数 量	金 額	備 考
1.	セミナー基本料金（参加 10 名）	（一式）	80,000	午後半日
2.	教材版下費	（一式）	4,000	
3.	出張交通費	（一式）	5,000	
	小 計		¥89,000	
4.	消費税（上記 1～3.の 5%）	（一式）	4,450	
	合 計		¥93,450	（税込み）

- 付帯事項は上記参考例 1 に同じ

[重要] 本件に関するお問合せに際してのお願い

本件のお問合せに際しては、必ず企業名、ご所属、氏名、電話番号をお知らせください。また、Eメールはご所属企業によるご本人の Eメールアドレスからご連絡ください。

- 企業名・ご所属を匿名とされたお問合せおよびご所属の企業ドメイン以外のメール（フリーメールあるいは一般のインターネットサービスプロバイダのメールアドレスを使用したメール）に対しては開催費用などのご返答がしづらいため、誠に恐縮ながら以上のご協力をお願いする次第です。

お問合せはこちらへ

有限会社 山之内総合研究所 山之内孝明 takaaki@yamanouchi-yri.com

（以上）